

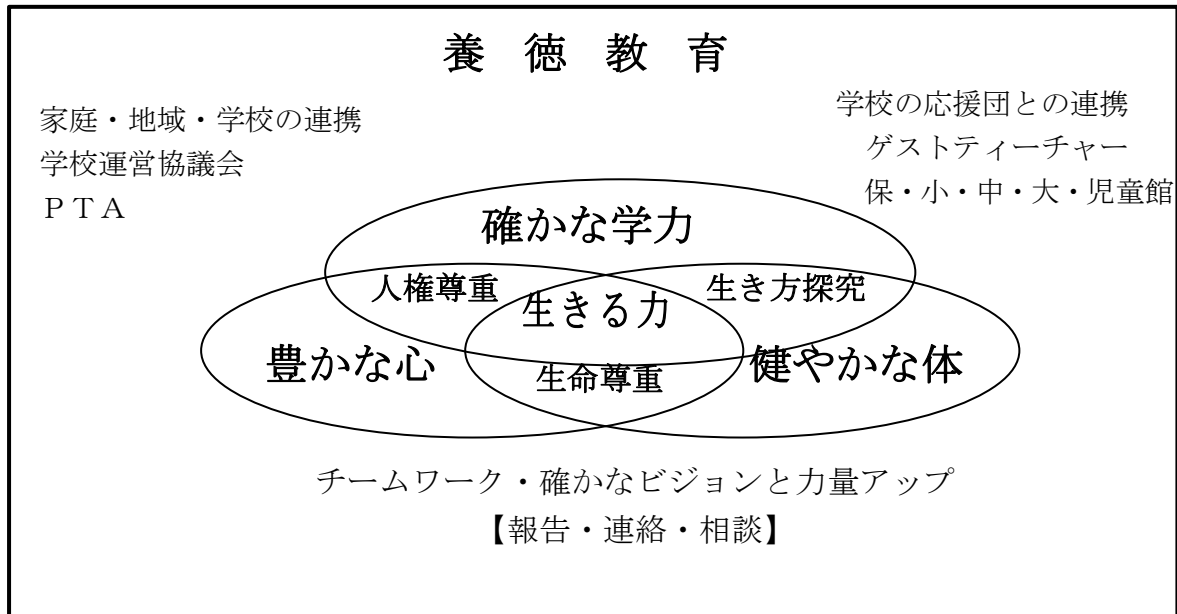
平成29年度 養徳小学校の教育

小中一貫教育目標

『小中9年間で 「生きる力」を育む』

学校教育目標

『一人一人の子どもを大切にする 養徳教育の推進』



【基本方針】

平成29年度も養徳小学校は、教育活動全般において『子どもの命（心・体）を守りきる』という最重要課題に向けて全教職員一丸となって取り組んでいく。

『安全教育の充実と学力向上』のために、全教職員が共汗・協働して子どもたちを教え育むという教育活動を展開する。そして、学校が「安心・安全な場所」として、子どもたちが元気に登校し、満足して下校できる活力ある学校を構築していく。

活力ある学校とは、安心・安全を基盤に、子どもたちが学ぶ意欲にあふれ規律ある学校だと考える。主体的に探究活動ができる学習環境づくりと、規範意識・自尊感情の醸成や仲間と協力し合う体験活動を通して、子どもが「将来に夢をもち、なりたい自分になれるために」生き生きと励める学校である。

活力ある学校創りには、全ての教職員が教育者としての責任を自覚し、確かなビジョンと力量を持って、学校としての組織力を強化させることが重要です。そのためには、連携や個々の課題への取組だけでなく、PDCAサイクルやOJTを活用し、組織としての自助努力によって活性化を図っていきます。

1 目指す子ども像

○すすんで学習し、表現する子

- ・学習規律を身につけ、話を丁寧に聞ける子ども
- ・学習課題に向けて、主体的に学ぶ（探究する）子ども
- ・自分の思い・考えを意欲的に言葉や文字で表現する子ども

○お互いを大切にし、支え合う子

- ・自他の命を大切にできる子ども
- ・相手の気持ちや立場を考えて行動し、仲よくできる子ども

○きまりを守り，正しく行動する子

- ・学校や社会のきまり・ルールを守って行動し自分の責任を最後まで果たせる子ども
- ・基本的生活習慣に関心をもち，運動やスポーツを楽しめる子ども。

2 目指す教職員像

○一人一人の子どもの安全と学びのために，共に汗して働く教職員

○「報告・連絡・相談」を徹底する教職員

○指導しきる教職員

○新しい発想，創意工夫した教育活動を積極的に推進する教職員

○自らの課題に対し自己研鑽に励み，指導力・専門性の向上に努める教職員

3 学校教育目標の具現化に向けて

— 主体性と社会性を育む教育活動の構築 —

① 人権尊重の精神の育成と安全管理・安全教育の充実

○全ての教育活動の中で，全児童の安全と人権を守る。

○命（心・体）を大切にするために，自ら考え判断し行動できる力を育む。

【安全管理・安全教育の徹底】

- ・養徳水泳指導マニュアルを基に，安心安全で楽しい水泳指導の実施
- ・安全管理・安全指導の徹底と計画的な実践
- ・安全教育（交通安全・生活安全・災害安全）の充実
- ・避難訓練の充実（火災・地震・不審者）と保護者や地域との連携（小小・小中）
- ・食物アレルギー対応マニュアルの策定と保護者との連携
- ・緊急時マニュアルの作成と研修・実地訓練の実施
- ・教職員の危機管理意識の向上に向けた理論研修・実地訓練の充実

【人権教育・生徒指導・道徳教育の充実】

- ・「ありがとう・ごめんなさい」を含めて，挨拶できる子の育成
- ・いじめのない学級づくり。学校体制として「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を進める。（アンケート・クラスマネジメントシートの活用）
- ・しなやかな道徳教育の実践を推進する。
- ・規範意識の育成，自尊感情の醸成
- ・児童に寄り添いながら，その背景・要因を探り，児童理解・解決のための方策を工夫していく。（組織としての共通認識と連携）
- ・LD等通級指導教室や育成学級の取組との連携・情報の共有化・指導法の工夫
- ・教室の整理・掲示場所等の工夫
- ・不登校の未然防止と学校復帰を目指した組織的なきめ細かな対応・温かい支援
- ・積極的な家庭訪問による児童理解と保護者との連携
- ・児童を呼び捨てにしない。「…さん」付け
- ・認めて，ほめて育てる。子どもとの信頼関係
- ・支援の必要な子どもや課題のある子どもの学力向上。
- ・社会性・コミュニケーション力の育成

- ・児童会活動の工夫・充実（高学年のリーダー性育成・異年齢集団の関係づくり）
- ・清掃時間のていねいな指導・子どもとの協働
- ・常日頃からの教室や廊下の整理整頓と安全点検

② 確かな学力の定着を目指して

- 学習規律の徹底（全学級、共通認識）
- 学力向上に向けて各調査の分析
（全国学力調査・京都市学力定着調査・ジョイプロ・プレジョイプロ）
- わかる喜びと学ぶ楽しさの授業の工夫を目指す
板書； 学習の終盤にはその時間の活動や子どもの学びが確認できる板書
めあて（学習課題）の提示・学習の流れ・学習活動・
めあて（学習課題）に応じたまとめ・振り返り
- 伝え合い・学び合う 学習集団の育成
 - ・支援の必要な子どもへの対応と個や集団の特質に応じた指導をする。
 - ・問題解決を図る学習や探究活動の充実
 - ・45分の学習活動において、子どもの発達段階も考慮しながら言語活動の場を毎時間設定する。
- 基礎的基本的な知識・技能の確実な習得と定着、それらを活用し豊かに表現できる力の育成
 - ・帯時間（ベーシックの学習での反復と継続）
- つきたい力を明確にした言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育成
「読む 書く 話す 聞く」活動の重視（コミュニケーション力）
 - ・学習意欲に繋がる掲示物の工夫（校内・教室）
- 図書館利用の充実
 - ・読書100冊マラソン奨励
 - ・教科学習での計画的図書館活用

③ 心身ともに健康に生活する力の育成

- 早寝・早起き・朝ごはんの奨励
- 食育の推進
- 体力向上に向けた取組

④ 学年母体としての取組み

- ・学年主任を中心に連絡・相談を密にして、京都市スタンダード・週案を基に、学習指導内容・評価・計画の進捗状況を揃えておく。
- ・掲示物や児童の作品に、学年としての教材研究・教材準備など連携した取組による指導の足跡が、うかがえるような教育活動を行う。
- ・学年としての校内研究・生徒指導の実践

⑤ 地域ぐるみの教育の推進

- ・学校運営協議会を核にした教育活動の充実
- ・各種団体や専門機関（消防署・大学・病院）と連携した学習・研修の実施
- ・学校評価を活かし、成果と課題を明確にした実践
- ・保幼小中大の情報交換や連携によるきめ細かな育成支援と指導力の活性